松梅校道徳通信

令和8年6月23日
文責：坂口　西山

ふれあい道徳を行いました！

６月７日（日）のフリー参観デー。各学年で「ふれあい道徳」がありました。どの学年も保護者の皆様にもご参加いただき、教室にいる全員でそれぞれのテーマについて考えました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

【小学部１年生】　「がっこうにはね…」（B(7)感謝）」

普段、何気なく過ごしている小学校にはどんな先生がいるのか、先生たちはどのように自分たちを支えてくれているのかを考えました。自分たちが知らないところでも頑張ってくれている人たちがいることを知り、感謝の気持ちをもつことの大切さを学びました。

【小学部２年生】　「おれたものさし」（A(1)善悪の判断，自律，自由と責任）

自分の過ちを人のせいにする子に対して、指摘できない主人公。主人公も過去に押し付けられた過去があり、どうしようか思い悩む。最後には間違ったことを正す行動を起こす。主人公が押し付けられた時と、正しいことができた今回の気持ちを比較することで、正しい行いができるようになるためには何が大切か考えました。

【小学部３年生】　「いいち、にいっ、いいち、にいっ」（B(9)友情・信頼）

苦手意識をもっていた友達と運動会で二人三脚の相手をすることになった主人公。最初は自分がどうにかしようと思った主人公だったが、一緒に練習を重ねていくうちに、少しずつ上手になっていく。友達と仲良くなったり、助け合ったりするためには何が大切か考えました。

【小学部４年生】　「もっこをせおって」（C(13)勤労，公共の精神）

内容は、岩手県宮古市に引っ越した姉妹が、東日本大震災の時に、地域の人々に食べ物などを配り続けた実話をもとにしている。重い荷物を背負って１時間の道のりを歩く２人の気持ちや学校が始まっても配達を続けた２人の気持ちを考えました。保護者の方々からもみんなのために働くときの思いなどを聞かせて頂きました。

【小学部５年生】　「くまのあたりまえ」（D(19)生命の尊重）

死んでしまったオスのクマの様子を見て、「死ぬのは怖い！死にたくない！」と考える子グマ。死ぬことがない石に、どうやったら石になれるかを教えてもらい、石のように過ごしてみます。生きているから感じることができる当たり前、生きているからできることとは何かについて考えました。

【小学部６年生】　「路傍の石」（D(19)生命の尊重）

題材の「路傍の石」は、明治時代を舞台に、貧しさや不遇な環境にも負けず、自律した人間になろうと懸命に生きる少年(吾一)の成長を描いた物語です。吾一の生き方を通して、困難に立ち向かう勇気や、「命を生かすとは？」どんなことかを保護者の方々と一緒に深く考えました。

【小学部いきいき２】　「ある犬のおはなし」（D(19)生命の尊重）

幸せな子犬時代から、飼い主の心変わりによって保健所で悲しい最期を迎えるペットのお話です。ペットの殺処分の現状を知り、命の大切さについて考えました。自分が飼っているペットのことも考えながら、ペットの命を大切にすることとは、どうすることかを保護者の方と一緒に考えました。

【中学部１年生】

「私と小鳥と鈴と」（B(9)相互理解，寛容）

金子みすゞの「私と小鳥と鈴と」を題材に「個性」について考えました。保護者さんも一緒に、様々なものの見方についてクイズを行いながら、一人ひとりの「ちがい」を楽しみました。

＜生徒の感想から＞
・人によっての個性や感性、考え方や得意不得意があるということへの理解をよく深めることができました。
・「みんなちがってあたりまえ」をきいて、みんな違う考え方をしていることがわかった。これからは、たくさんの人の意見を聞いて、「そんな考え方もあるんだ」と知っていきたいと思った。

【中学部２年生】

「砂漠でサバイバル」（B(9)相互理解，寛容）

飛行機が砂漠に不時着したという設定のもと、生還するために必要な 12 個の品物について、重要だと思う順に順位付けを行いました。一つの意見にすぐ決めるのではなく、それぞれの考えの理由やよさを確かめながら、保護者の方と一緒に話し合いました。

＜生徒の感想から＞
・自分の意見だけでなく、他の人の考えを聞くことで、自分には思いつかなかったさらに良い案が浮かんだので、これからもしっかりと話し合いをしていきたいです。
・はじめはみんなの意見が違ったけれど、話し合いで何が必要なのかを考えて、みんなが納得できる結果にできた。

【中学部３年生】

「いのちの判断」（D(19)生命の尊さ）

「親や子どもが脳死状態になったとき、本人の意志に従って臓器提供を承諾するか」という問いについて、保護者の方と意見を交流しました。

＜生徒の感想から＞
・命は自分のものだけではなく、他人のものでもあると思ったし、少しでも長く生きてくれるならそっちを優先したいと思うほど大切なものなんだと改めて思った。
・今まで生きてきた時間をたった 1 日や 2 日で死なせてしまうのがつらいと思う。それでも、どこかで命を継いでくれるのであれば、気持ちは少し楽になるのかなと思ったり思わなかったり・・・難しいです。
・もし、自分の親が脳死だったら、臓器移植カードを持っていないでほしいと思いました。

＜参観者アンケートより＞

○「答えがない道徳の時間」という先生のお話。普段どうしても良い、悪い、正解、不正解を考えてしまうのですが、ジャッジせず自分の素直な感覚に寄り添うことを心がけて、子ども目線で授業を見ることができ、新鮮でした。子どもたちは、テーマに対する自分の意見をしっかりともっていて頼もしいです。

○少人数のため、自由に発言しやすい環境があるというのはいいことだと改めて感じました。自分の考えや意見をもつことは大事だと思うし、さらにそれを人に伝えるということも大人になって急にできるようになることはないと思うので、今のうちから自分でいろいろ考え、それを先生や友達に伝え、また友達の考えや意見を聞いていろいろ感じたり考えたりしていってほしいと思います。

○この授業を受けただけでも、それぞれ個性があって、全員の感性が違うことがよく分かったと思います。

○正解を探さず、自分の感じたことを伝え合う、認め合う、というのはとても難しいですが、貴重な時間だと感じました。

たくさんのご参観・アンケートへのご協力ありがとうございました！